

学生FDサミット2014春

2014年3月8日(土)・9日(日)の2日間、白山キャンパスにおいて「学生FDサミット2014春」(全体テーマ:あなたが作る、大学最高大作戦ーめざせ意識改革ー)を開催しました。学生FDサミットは、全国で学生FD活動に取り組む学生、教職員が一堂に会するイベントです。今回の参加者数は、2日間で延べ620名となりました。

1日目は、オープニングセレモニーの後、「学生FD概論Ⅰ」と題して、参加者同士のワークを交えながら学生FD活動のあゆみや、FDとは何かについての共通理解を得るセッションを行いました。次に、関東圏で学生FD活動に取り組む、日本大学文理学部、筑波大学から学内で力を入れている取り組みの紹介がありました。

1日目の午後は、参加者が自分で参加したいセッションを選び参加する、自由な学びの場として「分科祭の部」を6つのテーマで企画しました。精力的に学生FD活動に取り組む大学には、「学生FD戦略論」と題して広報活動のコツや、学生発案型授業の概要などをお話いただいたほか、アクティブ・ラーニングを専門とする教員をお招きして、アクティブ・ラーニングとは何かについて理解を深めるセッションも設けました。



↑1日目午前中のワークショップの様子

2日目は、参加者が事前に議論したいテーマを選んで参加する「テーマ別しゃべり場」を企画しました。しゃべり場では「学生FD活動の取り組みを考える」「大学教育を考える」など、4つをテーマとしました。しゃべり場の後は、しゃべり場での成果報告会をテーマごとに行いました。各グループともに、模造紙などに内容をまとめ、熱のこもった発表を展開していました。

しゃべり場の後には、参加者が所属大学ごとに別れワークシートを用いてサミットを振り返り、自大学を最高の大学にしていけるための作戦を練る場を設けました。

ファイナルセッションでは、「学生FD活動の方向性を問う」と題して、学生FD活動の抱える課題と今後の方向性を整理しました。

日本大学の学生の今宮加奈未氏は、学生の立場から働きかけるFD活動は成果が出るまでに非常に時間がかかると指摘し、立命館大学の沖裕貴教授からは学生FDスタッフは今後「専門性」を高めていく必要があると主張されました。

本サミットの詳しい内容は、開催報告書としてまとめFD推進センターホームページに掲載しております。

学生FDチームでは、今回の学生FDサミット開催を通して得た知識を、学内での取り組みを充実させるために活かしていきます。



↑2日目の大学最高大作戦グループワークの様子

(大学院文学研究科教育学専攻・曾根 健吾)

学生FDチームニュースレター

履修制度の改善に関する提案づくり

学生FDチームは、履修登録における「抽選」と「登録期間」に関して、学生目線での改善案を提案しました。履修制度を学生の視点を活かして改善することで、学生の学習意欲をさらに高めることができると考えられます。また、学びへの意欲を持っていない学生に対しても、落ち着いて考えることができる期間を確保することが、大学における学びを充実させる一歩として重要であると考えられます。

提案作成の流れとして、9月1日(月)～13日(土)に白山キャンパスの学部在籍する学部生を対象として、履修制度に関するアンケートを実施し、合計811件の回答がありました。その結果をもとに、学生FDチーム内で分析、議論を行い、多くの学生が考える問題点として「履修登録期間の短さ」「学部によって通年制とセメスタ制が異なること」「新入生が履修制度に対する理解不足であること」「抽選後の対応が適切に行われていないのではないか」といった点が挙げられることを見出しました。次に、アンケートの分析結果をもとにして履修制度の改善に関する提案書を作成しました。提案書では、「シラバスにおいて、授業風景が分かる動画を掲載すること」「第1回目のガイダンスを、90分のうち何回かに分けて行うこと」「予備登録期間(仮登録期間)を設けること」の3点を主として提案しました。提案書の提出後、教務部の担当教職員の方々と学生FDチームスタッフで意見交換を行いました。その際、特に、2014年度の履修登録期間が月曜日～木曜日の4日間である理由について、教務部より以下の説明をいただきました。「大学設置基準上、試験期間や補講期間を除いて、1科目あたり半期15回にわたる期間で授業を行うことが求められている。15週間を確保するには、正規履修登録期間における履修登録、教室調整、抽選の実施と結果発表、その後の追加登録期間における履修登録の流れを、2週間で完結する必要があり、そのことから2014年の履修登録期間は金曜日と土曜日を除いた4日間となっている。」

その後、教務部では、履修登録期間に関して、①「現状が最善と考えられるため、現状維持とする」、②「ガイダンス期間をなくし第1回目の授業開始前から履修登録を開始する」、③「月曜日～土曜日の1週間の履修登録期間を設け、履修希望者数に対する適切な規模への教室調整等を、現状2週目には完了していたものを、3週目以降に遅らせる」という3つの案が話し合われているとの説明をいただきました。

今後も、学生FDチームでは、履修制度に関して、更なる改善に向けた提案ができるよう努めていきます。

なお、アンケート結果及び、教務部との意見交換会の内容は、FD推進センターホームページ上で公開しています。

(文学部・川村 雅俊)

CONTENTS

- 1 履修制度の改善に関する提案づくり
- 2 学生FDチーム代表 齊藤 克弥 よりあいさつ
東洋大学学長 竹村 牧男 先生 よりメッセージ
FD推進センター長 神田 雄一 先生 よりメッセージ
学生FDチームの紹介
- 3 2014年度活動一覧
他大学との交流！ 2014年度学生FDフォーラム
- 4 履修のお悩み相談会

その他の活動 Other Activities...

- 5 オープンキャンパス企画 学生トークライブ
ワークショップ×しゃべり場企画 思考をみつめる75分
学生目線の授業紹介活動
学生FDチームの理念実現に向けて
学生の声や想いを活かした大学教育へ
- 6 ACTIONⅠ 第2回 東洋 授業への声コンクール
- 7 ACTIONⅡ 新任教員FD研修会
ACTIONⅢ 学部のFD活動への参加・協力
- 8 学生FDサミット2014春

学生FDチーム代表 齊藤 克弥 より あいさつ

東洋大学FD推進センター学生FDチームの代表を務めます、社会学部社会学科の齊藤克弥です。

東洋大学の学生FDチームは、発足して今年で5年目となりました。2014年は関東で初の全国サミットを開催した他、初の試みとなる東洋大学の全キャンパスの学生、教職員を対象とした、東洋大学サミットを実施するなど、多くの場面において学生FDチームにとって大きな転換点を迎える年でした。

今後も東洋大学をより充実した学習環境にし、さらに誇りを持てる大学にするべく活動してまいります。



東洋大学学長 竹村 牧男 先生より メッセージ

教員とともに授業を創っていきましょう

私は、大学のいのちがカリキュラムにあると、常々考えています。その中には、どんな時代にあっても学ぶべきものもあれば、時代に求められるもの、時代を先取りするものも含まれるべきでしょう。ただし、その練り上げられたカリキュラムの下に行なわれる授業が、真に効果のあるものとなるには、授業内容や学生の状態等によって最適の授業方法が採られなければなりません。その方法は、学生の側で提案し、学生の側で主導することも望ましいことです。ぜひ教員と協働して、楽しく活発な授業を実現していきましょう。



FD推進センター長 神田 雄一 先生より メッセージ

「学生FDチーム」への期待

本学においても正式に「学生FDチーム」が発足し、活発な活動を展開していることは大変喜ばしいことです。これからのFD活動は教職員と学生が共に協働してより良い大学づくりを目指すことだと考えます。学生FDチームは独自の活動を通して、学生の視点からの提案や改善活動を積極的に展開していただきたいと願っています。

T.E.A.MとはTogetherness、Enthusiasm、Attitude、Mental toughnessであると聞いたことがあります。「学生FDチーム」の今後の活躍に期待しております。



学生FDチームの紹介

ファカルティ・ディベロプメント (Faculty Development)

は、本来、「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み」とされていますが、昨今では大学の主役である学生を中心に「学生FDサミット」を開催するなど、教職員に学生を加えた三位一体で授業方法を改善、向上させようとする動きがみられます。本学でも、履修制度に関する改善の提案づくりなどに取り組み、さらに他大学との交流の一環として、学生FDフォーラムなどの企画・参加も行っています。

本学では、2010年から学生FD活動がスタートし、スタッフの募集を始めました。現在12人が「学生チーム」として大学での授業を中心とした学びを、学生の視点から学生の力を活かして、教職員の方々とともにより良いものにしていくために、取り組みを進めています。学生FDチームスタッフは随時募集しています。私たちとともに楽しく活動し、学生FDチームの一員として、大学での学びを学生の手でよりよくするために活動してみませんか？

(社会学部・岩堀 伸哉)



↑ある日のミーティング終わり

<活動理念>

東洋大生がより主体的に学び行動し、
東洋大生であることに誇りをもてる
大学をめざす

2014年度 活動一覧

(1) 定例活動

・昼休みのスタッフ会議

毎週、1回、昼休みと6限に定例スタッフ会議を開催し、情報の共有および諸議題について話し合っています。

「第2回 東洋 授業への声コンクール」
のニュースレターも発行しました！



↑「学生FDサミット」にて
自大学の活動紹介

(2) 年間の主なイベント・活動(2014年度)

4月 「履修のお悩み相談会」の開催、

東洋大生のための「学び」セミナーの開催

7月 オープンキャンパスでの企画の開催

8月 「学生FDサミット2014夏」への参加

11月 「第2回 東洋 授業への声コンクール」実施

12月 「東洋大学サミット2014冬」の開催

年間を通して

・履修制度の改善提案の作成

・他大学との連携企画の開催

(3) その他の活動

- ・ホームページの更新、ニュースレターの発行など広報活動の充実
- ・学生・教職員合同会議の開催
- ・学外・学内に開催されるFD関連の研修会への参加
- ・学生FD活動の取り組みのアーカイブ化 …etc

(社会学部・清水 滉太)

他大学との交流！

2014年度 学生FDフォーラム

2014年10月4日(土)、125記念ホールにて「2014年度学生FDフォーラム」を開催しました。「学生FD活動の継続、発展、間一継続し、発展し続ける活動をめざして」という全体テーマのもと、学生、教員、職員が一体となり、議論を繰り広げました。

このフォーラムでは、3大学が企画した分科会を行いました。分科会のテーマは、東洋大学「学生FD活動の課題とその解決に迫る」、嘉悦大学「楽しく大学教育の改善に取り組み、継続していくために」、日本大学文理学部「学生FDの更なる発展に向けて、これからの学生・教員・職員の連携のあり方とは」の3つでした。

分科会終了後に行った全体会では「学生と教職員と一緒に進める学生FD活動を、楽しく継続し、元気に活動していくために」というテーマで、教職員と学生が3人1組のグループになり、議論を行いました。



↑分科会での議論の様子



↑全体会でのワークの様子

全体会では「学生FD活動を続け、授業改善を行うことで大学を大きく変えることができるが、そのためには『人材確保』が不可欠であること」を改めて確認し、今後も各大学で積極的に授業改善に取り組んでいくことを共有しました。

今後も本フォーラムの成果を存分に活かし、引き続き「学生の主体的な学び」の確立に向けて学生FDスタッフと教職員が一丸となり、各大学が切磋琢磨して授業改善に向けた取り組みを行えるイベントを開催していきたいと思っています。

(経済学部・戸田 裕貴)



2015年度春も開催予定♪

履修のお悩み相談会

2014年4月4日(金)、オリエンテーション期間中に、白山キャンパス3号館ナレッジスクエアにて、新生、新2年生を対象とした履修のお悩み相談会を実施しました。白山キャンパスの各学部所属する学生FDチームスタッフを中心に、新生の抱える大学生活に関する不安や履修の組み方、諸資格、留学に関する質問などに答えました。

実施をして良かったと考える点は、新生は初めての履修登録で不安を抱えており、このような機会があることによって、新生の大学生活の充実に向けた支援に繋がったのではないかと。また、学生の目線でももしろい、と感じた授業を紹介する取り組みも行っており、その活動の一環として「おもしろ授業の紹介冊子」を閲覧する機会を設けました。オリエンテーション期間中に実施したため、学生の目線から様々な授業を新生に紹介することで、新生がより主体的に授業に参加することを促すことができたかと思えます。



↑相談会に来た学生に説明の様子

広報不足により新生、新2・3年生が参加してくれるのかという不安もありましたが、会場がガラス張りであることも功を奏し、会場の外から興味を示して入ってきた新生が多数おり、当日は約40名の参加がありました。立て看板やポスターだけでなくさらに他の方法も用いた広報を行うことで、より参加者が増えたのではないかと考えます。他の反省点も踏まえて次の開催に繋げていきたいと思えます。

(文学部・柏木 都萌美)



その他の活動 Other Activities...



オープンキャンパス企画 学生トークライブ

2014年7月20日(日)・21日(祝)に、オープンキャンパスにて受験生を対象とした企画「東洋大生トークライブ」を開催しました。本企画では、大学生活とはどのようなものかを参加者に伝えました。会場は約120人を収容できる6201教室でしたが、両日ともほぼ満席となり立ち見の方もいました。

当日の内容は、受験生に大学生のイメージを聞き、受験生の今の日常生活を円グラフに書いていただきました。その後受験生自身の生活とスクリーンに映す学生FDチームスタッフの実際の生活を比較するなど、受験生にはアクションの多い企画を楽しんでいただきました。他にもゲストの学生を呼び、留学、就職活動、ボランティア活動、インターンシップやサークル活動など、勉学以外にも頑張っている活動を紹介しました。進行役がゲストの学生に具体的な質問をして、対談形式で話を進めるなどの工夫や、ゲストの学生に得意技を披露してもらうなど、受験生を笑顔にするユーモアを取り入れたことで、本企画は最後まで和やかな雰囲気でも閉じました。

(文学部・大森 優也)



ワークショップ×しゃべり場企画

思考をみつめる75分



↑満席となった会場

2014年7月2日(水)に、学生を対象としたワークショップ×しゃべり場企画「思考をみつめる75分」を、白山キャンパス6号館にて開催しました。

開催にあたって、事前に学生を対象として「学生のうちに身につけたいスキルとは何か」を、教員を対象として「学生に身につけてほしいスキルとは何か」について調査を行った結果、双方が考える「学生のうちに身につけたいスキル」、「学生に身につけてほしいスキル」へのニーズとして「論理的な思考力をもつこと」が挙げられました。そこで、今回は、「思考力を見直すこと、思考力をつけること」をねらいとしました。



↑ワークをしている様子

当日は、参加者の思考力を問う質問を投げかけ、また、参加型ワークショップとして進めるなど工夫を凝らしました。その後、参加者自身が今後どのように思考力を身につけて、今後の大学生活の中で活かしたいかを確認しました。

ワークショップの後半では、大学の授業に対する思いをテーマとして、参加者が自由に語り合う場を設けました。参加した学生からは、「板書が速い先生がいるので、学生に一度考えさせてからノートを取る時間を設けるなどの工夫をしてほしい」などといった声がありました。

(経済学部・中川 靖菜)



学生目線の授業紹介活動

現在、学生FDチームでは、学生の目線でももしろい、よいと感じた授業を冊子、WEBで広く学生に周知する取り組みを行うべく準備をしています。この取り組みは、学生ならではの多様な観点から授業を紹介することで、学生自身のさらなる学びへの意欲向上と主体的な授業参加を促すことを目的としています。FD推進センターホームページには、すでに「学生によるおもしろ授業紹介」のページが設けられており、現在はデータブック化するべく検討を進めています。

特に新生にとって、入学当初は大学の授業とは未知のものであり、不安と期待を胸に抱いていると思われます。学生が考える、よい授業、おもしろいと思う授業を広く学生に周知することで、新生の授業に対する不安を払拭することは、新生の大学生活における授業選択の助けとなります。それが、「大学の授業っておもしろい!」と思えるきっかけとなり、主体的な授業参加を促すことに繋がると考えています。

(国際地域学部・石井 俊輔)

学生FD

3つの
ACTION

学生FDチームの 理念実現に向けて／

学生の声や想いを 活かした大学教育へ！

ACTION I

第2回

東洋 授業への声コンクール

昨年度の第1回に引き続き、「第2回 東洋授業への声コンクール」を開催しました。今年度は散文、韻文、ポスターの3部門に分け、作品の募集を行いました。今回のコンクール開催を通して、「学生の皆さんが授業に対してどのように考えているか」を知ることができ、主催者側である学生FDチームスタッフも、学生FDチームの目標である「より良い授業をめざした授業」に大きく近づくことができたと思います。

コンクールの広報に関しては、学内各所でのポスター掲示、スタッフ募集も兼ねた校内放送、ホームページでの宣伝等、昨年度よりも充実した広報活動を行いました。担当者である私は、学内の様々な場所で「第2回 東洋 授業への声コンクール」という文字を見るたび、この企画に携われることを誇らしく思いました。また、ポスターを見た友人から「学生FDチームって何？」「普段どのような活動をしているの？」と聞かれることが多くなりました。学内での広報がコンクールの宣伝だけでなく、学生FDチームの活動の周知にもつながったと感じています。

応募作品の選考では、今年度もFD推進センター長である神田先生をはじめ、FD推進センターの教職員の皆様にご協力をいただきました。授業を受ける学生、授業を行う教員、授業を支える職員、3つの目線から入賞作品を選ぶことで、よりテーマに沿った入賞作品を選ぶことができたと考えます。応募作品はどれも想いが伝わるものであり、入賞作品を決めることは容易ではありませんでした。入賞作品も、そうでない作品も、学生の皆さんが授業に対して抱く想いを言葉や絵で表しており、学生の声を知る貴重な機会となりました。今年度は、学生が主体的に授業に取り組むようになった過程を説明した作品が多いと感じます。応募いただいた方々に、この場を借りて、お礼申し上げます。

大学の授業には様々な形態があります。大教室で受ける授業もあれば、少人数ディスカッションをする授業もあります。どの授業でも大切なことは「学生側がいかに授業に主体的に取り組むか」ではないでしょうか。学生のやる気スイッチを押してくれる仕掛けは、授業の中にたくさんあります。その仕掛けは、先生の何気ない一言や、テキストに載っている問題かもしれません。今回のコンクールを通して改めて、授業の中に散らばるやる気スイッチを探してみたいと思いました。

(法学部・林 大翔)

学生の声拾います！



↑ 選考会議での審査の様子



↑ ポスター

教職員と共に！

新任教員FD研修会

ACTION II

2014年7月5日(土)に、白山キャンパス1号館にて、平成26年度着任の新任教員の先生方を対象にした「平成26年度新任教員FD研修会」が開催され、学生FDチームスタッフが「学生と教員が共につくる授業」をテーマにプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションでは、学生FDチームスタッフ3名が登壇し、学生が考える望ましい大学の授業とはどのようなものかを、授業を受ける環境、授業の内容、授業の方法、先生、学生といった項目別にまとめた内容を発表しました。

これまでの取り組みから、授業について「授業の中で発言する機会をほしい」「学生同士で意見を交わすことができ、かつ先生とも話せる授業がよい」など、アクティブな授業を求めるものや、「ToyoNet-ACEの掲示板機能を使用することで、学生の発表のデータを共有できてよい」、「講義資料は配布するのではなくToyoNet-ACEにアップし学生が個人で準備をすることで、授業での資料配布時間を大幅に短縮できる」といった学生の声が得られており、こうした意見を項目別にまとめて発表しました。

最後に、学生FDチームの活動紹介を簡単に言い発表を終えました。その後の質疑応答では、参加された新任教員の先生から私たちスタッフに熱心な質問があり、会場では活発な議論が行われました。

(経済学部・中川 靖菜)



↑ プレゼンテーションの様子

ACTION III

学部でのFD活動への参加・協力

学生の声届けます！

学生FDチームは、学部主催のFD活動への参加・協力も積極的に行っています。

「経済学部平成26年度第1回FD講演会」

2014年9月11日(木)に、「経済学部平成26年度第1回FD講演会」にて、「学生から見たシラバスと授業」という内容で意見発表を行いました。

これまでの取り組みで得た学生の声から、「専門用語ばかりで書かず、分かりやすい文章やよく知られている単語で書くこと、補足説明をすること」などをわかりやすいシラバスの例として提案しました。学生FDチームでは、今後も学部主催のFD活動への参加・協力を大切にしていきたいと考えています。

「学生との意見交換会」

2014年11月6日(木)に、経済学部主催「学生との意見交換会」が開催され、学生FDチームスタッフ3名が参加者及びグループディスカッションのファシリテーターとして参加しました。

意見交換会に参加した学生からは、今回の意見交換会のテーマであるシラバスについて「履修する授業を決める参考とするため、該当授業を履修した学生の声を掲載してほしい」、「他学部の授業を把握するために、授業の検索を曜日ごとになりたい」、「初見では難しい用語がシラバスに羅列されているために、具体的にどのような授業を行うのかが分からない」といった意見が出され、これらの意見を基に様々な議論が交わされました。

(経済学部・中川 靖菜)



↑「意見交換会」での学生と教員の議論の様子